

## 大賞(農林水産大臣賞)

名称 (所在地)	対象作物	実施面積	取り組み概要
あいち海部農業協同 組合 エコ部会 (愛知県 津島市)	野菜	3.5ha (23戸)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニー(株)系列店舗から排出された食品残さと地域の家畜ふんの混合堆肥を利用した土づくりを行い、生産された農産物をユニー(株)系列店舗で販売する取組を行っている。平成20年現在で、部会員23名、出荷品目61品目、出荷先は7店舗である。</li> <li>○混合堆肥の肥料成分を考慮した施肥により、従来と比較して化学肥料施用量を43%低減している。また、混合堆肥による土づくり、生物農薬や防虫ネットを利用し、化学合成農薬の使用回数を43%低減している。</li> <li>○消費者交流会や即売会において、農産物に対する消費者の意見を部会員が直接確認し、鮮度の高い農産物を消費者に届けるためのコンテナ出荷など、可能な限り消費者のニーズに応えている。</li> <li>○農業者が地域の消費者、流通業者と、農産物や資源、情報でつながる都市近郊ならではの環境保全型農業の形態を創り上げている。</li> </ul>
福津農園 松沢政満 (愛知県 新城市)	水稲、野菜、鶏卵等	1.5ha	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昭和59年にUターン就農し、地域の先駆けとして有機農業を開始した。経営面積は1.5haで、全面積で有機農業を実施している。販売品目は少量多品目栽培のため、約200種類と多く、うち1次農産物(水稲、野菜、鶏卵等)が120種、加工品(切り干し芋等)が80種である。</li> <li>○農作物だけでなく、それを取り巻く雑草や虫など注意深く観察し、栽培方法を一から見直した結果、「土は草でつくる。草は草で、虫は虫で、菌は菌で制御する」という考え方にに基づき、立地条件、植生にあった栽培を行うことなど、有機栽培技術を確立した。</li> <li>○消費者とともに地域農業を考えることが重要であると考え、有機農業で栽培した農産物を豊橋市の朝市で販売し、都市部の消費者との交流を深めてきた。自らの農園も消費者に開放しており、多様な生物が生きる豊かな自然を求めて、多くの家族連れや団体が福津農園を訪れている(年間約1,000人)。</li> <li>○有機農業を研究関係、教育関係、一般消費者まで、幅広く紹介し、研修会講師や体験学習など積極的に活動したことで、有機農業を身近なものとして認知させ、愛知県をはじめとして、全国的な有機農業者のリーダーとして、有機農業推進に貢献している。</li> </ul>

優秀賞(有機農業推進委員会会長賞)

名称 (所在地)	対象作物	実施面積	取り組み概要
愛農学園農業高等学校 (三重県 伊賀市)	水稻・野菜・果樹	3. 15ha (生徒数 66人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業教育の柱を「土づくりを中心とした有機農業教育」としており、有畜複合経営による有機農業を学ぶことができる高校である。</li> <li>○S60年度から本格的に有機農業に転換し、学校内全体が有機農業の実践の場となっている。</li> <li>○校内での食料自給率は70%となっている。</li> <li>○土づくりに重点を置き、堆肥の発酵についてはそれぞれの作物にあった菌についての研究が進められている。</li> <li>○農薬を使用しないための手法として、あらゆる技術の導入を行い、またその実践・研究が行われている。</li> <li>○校内資源の循環利用に努めており、家畜排泄物の利用はもとより、食品残渣、廃食油も利用している。また環境にやさしいエネルギーとして太陽光発電の利用を行っている。</li> <li>○卒業生の44%が農業関係に従事しており、全国的にみて非常に就農率が高い。有機農業に携わっている者も非常に多い。</li> </ul>

奨励賞(全国環境保全型農業推進会議会長賞)

名称 (所在地)	対象作物	実施面積	取り組み概要
有限会社 まんま農場 (岐阜県高山市)	水稲	23ha (1法人)	<p>○第二種兼業農家3名と畜産専業農家1名の計4名により平成17年に設立された農業生産法人である。</p> <p>○山間高冷地である高山市上宝町は、1筆ごとのほ場面積も小さく、高齢化、過疎化による担い手不足から、農地の維持管理が困難となってきており、耕作放棄地が増加しつつあった。「農地の荒廃を防ぎ、豊かな自然や農村の原風景を守りたい」という熱い思いから、水稲受託経営に取り組み始め、灌木の生えた耕作放棄地の復田も自ら行うなど、現在では地域内水田面積の約1/3を担っている。</p> <p>○構成員でもある飛騨牛肥育農家から自家生産される素性の確かな完熟堆肥と、自ら実施している水稲栽培、精米過程で発生する稲わら、もみ殻、米ぬかを利用した土づくりで循環型農業を実践している。</p> <p>○天然無機物及び有機物から製造された有機質肥料を使用し、化学肥料(窒素成分)は不使用である。また、土壌診断に基づく施肥量の適正化や側条施肥田植機による肥効効率の向上を図っている。化学合成農薬の使用回数(成分回数)は、適期防除により必要最小限の5~6回で、慣行レベル24回の約1/4程度まで抑えている。また、無農薬の米を食べたいという消費者ニーズに応え、一部ほ場では化学合成農薬不使用の栽培にも取り組んでいる。</p>
田光資源と環境を守る会 (三重県 菰野町)	大豆、稲	31ha (83戸)	<p>○農地・水・環境保全向上対策を契機として平成19年に設立された団体であり、認定農家、田光転作営農組合が中心となり、地域農業のあり方を考えながら、環境に配慮した農業に取り組んでいる。</p> <p>○大豆では、麦わらすき込みによる土作り、県研究機関と肥料メーカーで共同開発された鶏糞ペレットの使用及び中耕培土や機械除草の実施により化学肥料や農薬を使用しない農業を実践している。</p> <p>○化学肥料や農薬を使用せずとも、基本管理を徹底し、県の平均反収より多い収量を確保している。</p> <p>○地域が一体となった営農活動、子供の食育体験・学校給食への導入、地域住民との交流が進められており、環境を考えた食を中心に地域の振興が行われている。</p>

特別賞(全国環境保全型農業推進会議会長賞)

名称 (所在地)	取り組み概要
生活協同組合連合会 東海コープ事業連合 (本部 愛知県 名古屋市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東海コープ事業連合と4会員生協(コープぎふ、みかわ市民生協、名古屋勤労市民生協:めいきん生協、コープみえ)と連携して2000年度に農産物自主認証制度を設置、同年8月より認証を開始した。</li> <li>○東海コープ事業連合が策定する農産物栽培自主基準と「栽培自慢表示基準に合致した生産物に対して、取引先・生産者団体が「栽培自慢」認証要綱に基づき、自主申請する。申請を受付した案件について、事務局(農産商品部・品質保証部)で事前に申請書類等の内容を点検した上で会員生協と東海コープ事業連合で構成する「栽培自慢」認証委員会(毎月開催)に提案し、審査、認証を受ける。</li> <li>○「栽培自慢」自主認証制度は、農薬の使用回数削減を指標として産地生産者団体を評価し、商品本体や共同購入注文書、店舗商品案内等に「栽培自慢マーク」を表記して、利用普及を推進する事業のしくみである。</li> <li>○H20年度取扱実績は、認証品目291品目、28道県+中国1(広東バナナ)取扱事業高29.2億円、対象分野の事業高構成比は38%である。</li> <li>○「栽培自慢」認証制度では、自治体や農業団体、NPO法人で認証している特別栽培農産物や環境に配慮した農産物等について、認証のしくみや内容を確認した上で「栽培自慢」認証品として受入れている。(愛知:いきいき愛知、岐阜:ぎふクリーン農業、みえ:安心食材、北海道:イエスクリーン、鹿児島:かごしまエコ農産物 など)</li> <li>○店舗で発生する鮮魚加工残さ等を回収し、取引先の肥料工場でぼかし肥料の原料にした上で野菜生産に活用する取り組み事例がある。</li> </ul>